



年中無休
ウィーンフィルの
コンサートマスターは大忙し

取材：文 岡本和子



写真：ヒダキトモコ

2017年4月、紀尾井ホール室内管弦楽団
首席指揮者に就任したライナー・ホーネック。
インタビューや密着取材を通して
その人となりになります。

最近のウィーン・フィル団員の多くは、他楽団を経て入団している。そんな中、18歳からエキストラとしてウィーン国立歌劇場管弦楽団で弾き、他団体のオーデイションを受けていないホーネックは、今では「純粹培養」の稀有な存在だ。

「でも、私が入団した頃はそれほど珍しくありませんでした。ほとんどの団員がウィーンで学んだオーストリアや周辺国出身者で、今とはだいぶ雰囲気の違いがありました。80年前後は、ちょうど大きな世代交代が完了した時期で、第二次世界大戦を知る最後の団員たちが定年で退団した時代です」

ホーネックが入団した1981年当時のコンサートマスター（以下、CM）は、69年と71年に最初からCMとして入団したゲルハルト・ヘッツェルとライナー・キュッヒル、入団後のオーデイションで74年にCMとなったエーリッ



1



2

ヒ・ビンダーとヴェルナー・ヒンクの4人。彼らの前任、ヴェラー、ボスコフスキー、バリリ、シーヴォはいずれも戦中・戦後、フルトヴェングラー時代のCMであり、確かに70年代を境に一気に世代交代が進んだことになる。

「私がCMになったのは入団後10年の91年です。ビンダー氏が指揮に専念するため退団して、ポストが一つ空いたのです。その翌年、ヘッツェル氏がザルツブルク音楽祭の期間中に事故で亡くなり、大変な騒ぎとなったのを覚えています。音楽家としても人間としても素晴らしい方で、本当に早過ぎる死でした」

ヘッツェル亡き後、ドイツ人・ダニエル・ゲーデが新CMに就任するもわずか6年で退団、歌劇場管弦楽団第五CMだった同郷のフォルクハルト・シュトイデがCMとなった。08年にはヒンク、昨年キュッヒルが定年退職し、ウィーン・フィル初の女性CMでブルガリア出身のアルベナ・ダナイロヴァと、ブラジル系ドイツ人のホセ・マリア・ブルーメンシャインがCM陣に加わった。しかし、ブルーメンシャインは3年間の



3

「音楽馬鹿」でなければウィーン・フィルは務まらないことだけは確かだろうだ。

聞いているだけで目が回りそうなお密スケジュールだが、「少年合唱団と歌劇場管弦楽団のルーツは、五百年以上も前に皇帝マクシミリアンがつくった宮廷楽団だからね」と当人はいたって涼しい顔をしている。言葉は悪いが「音楽馬鹿」でなければウィーン・フィルは務まらないことだけは確かだろうだ。

国内外でのツアーを行い、歌劇場が夏休みとなる7月、8月は事務局ごとザルツブルクに移動して音楽祭の仕事をこなす。リハーサルも合わせるも年中無休です（笑）。そのうえ個々には室内楽での演奏や音大での教授活動、また、王宮礼拝堂での日曜ミサでウィーン少年合唱団と一緒に演奏する『奉仕』の仕事もあります」

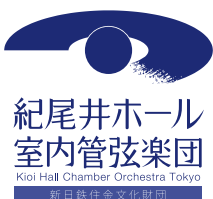
試用期間を終えないまま退団。詳しい理由は不明だが、世界一多忙ともいえるウィーン・フィルの生活に耐えられなくなつたというのがもつぱらの噂だ。

「ウィーン・フィルは9月から6月末まで毎晩歌劇場の公演があり、並行して定期演奏会や

- 1 1960年代のウィーン・フィル。指揮者カール・ベームと話をするバリリ(1941年 - 72年までコンサートマスター)とヨーゼフ・シーヴォ(1964年 - 72年までコンサートマスター)。
- 2 リハーサル後に指揮者(バレンボイム)と話をするホーネックとダナイロヴァ。リハーサル後に真剣な表情で指揮者と話をするコンサートマスターの姿は今も昔も変わらない。
- 3 ウィーン・フィルはとにかく忙しい! (2017年夏、ザルツブルクにて)

紀尾井ホール室内管弦楽団2018年度 定期会員募集中!

5回の定期演奏会を、同一曜日・同一座席・お得な料金でご鑑賞いただける定期会員を募集しています。また、5回の中から好きな3回をお選びいただけるセレクト3も好評発売中。お申込みは紀尾井ホールチケットセンターまたは紀尾井ホールウェブチケットまで。詳しくは、パンフレットや紀尾井ホールホームページをご覧ください。



あなただけの特等席

全公演とも同一の曜日に同一のお座席でご鑑賞いただけます。

おトクな会員割引価格

1公演券を購入する場合に比べ、どの券種でも約2割引になります。

定期会員限定イベント

楽団メンバーとの交歓会や、リハーサル見学にご参加いただけます。

セレクト3 好評発売中

2018年度 全5回からお好きな3回を選ぶセット券。公演ごとに座席を指定することができます。※S席・A席のみ